

## 令和6年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	<b>静岡県立浜松視覚特別支援学校 P T A</b>					
学校	対 象	<input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	24人				

### 1. 使用状況

寄贈物品名	<b>立体の展開図説明器</b>
使用学年及び人数	中学部1年 2名
使用頻度	図形領域の単元での学習で使用
使用状況	<p>準ずる教育課程で学習を進めている生徒に対して、中学校数学1年の図形領域の学習で支援具として活用した。使用者は、視覚障害のある生徒2名で、ともに点字を使用している。授業では、立方体や直方体などの構成要素(頂点・辺・面)を理解する際に、立体の展開図説明器を用いた。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>生徒は、指先で線や面をなぞりながら形を確かめ、立体模型と照らし合わせて「どの面がどこに位置するか」や「面と面のつながり」を確認していた。展開図説明器を使用することで、図形を「触って確かめる」学びが可能になり、触察を通して立体の形を理解しようとする積極的なあらわれが見られた。また、展開図説明器を使用後に点字の説明を読むことで、言語的理解と触覚的理解を結びつける様子も見られた。生徒は展開図説明器を活用しながら教師の問い掛けに応じ、立体の形や位置関係を表現しようとするなど、意欲的な学習態度が見られた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>今後は、展開図説明器を他学部の児童生徒も含めて、学習の中で必要に応じて活用していきたい。本校は児童生徒数が少なく、使用頻度は多くないと考えられるが、視覚的な情報の理解を支えるための有効な教材の一つとして活用していきたい。また、学習内容や生徒の実態に応じて、立体教材や触図など他の支援具との組み合わせを検討し、より効果的な学習支援の方法を工夫していく必要があると考えられる。</p>
その他希望や所感など	<p>「立体の展開図説明器」の寄贈、ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。</p>

## 2. 活用の様子

下記の写真のように、触って確認することで立体の構造をより具体的に捉えようとする様子が見られた。使用した生徒から、「点図だけよりも分かりやすい」「(立体と展開図を比較して)どの面がどこにつながっているかが分かりやすい」などの感想があった。

